

縁の下の

力もち

印刷物を通して一期一会の想いを支えるプロ集団



お客様の想いを、
印刷という
表現豊かな方法で
伝えます。

この「飛び出す会社案内」でお客様とのファーストコミュニケーションを大切にしています。



でくちたけし
出口武志さん (写真右)

1973年、京都生まれ。専門学校卒業後、印刷会社で2年半ほど修行ののち、父と兄が経営する創和紙行に入社。当初は営業をしていたが、跡継ぎだった兄の急逝により会社を引き継ぐ。正社員10人にパート社員、外部パートナーも含め、少数精鋭で「常に本気」の会社を率いる(左は営業の高橋さん)。



創立70周年を迎えた三洋化成が発行した「創立70周年記念誌」(3部作)を収納するフォルダー。三洋化成のロゴが留め具になっており、遊び心が感じられる。



紙製のフォルダーは、サンプルをいくつも作った。「強度が心配でした。全体のデザイン、留め具の部分の構造と紙質で、強度は変わります」。無事イベントが終わったと聞いて出口さんは胸をなでおろした。

神泉苑の近くに社屋を構える株式会社創和紙行は知る人ぞ知る印刷コーポレート会社だ。50年前の創業当初は繊維業界の包装資材などを手がけていたが、今は高級印刷物や限定製品の収納箱、特殊素材への印刷をはじめ、印刷物を含むイベントの企画運営まで扱う。

「注文を受けたら、お客様の想いを実現するために常に本気で挑みます。印刷物というモノの背景にある想いや願い、使われるシチュエーションまで考えて取り組んでいきます」と語るのは社長の出口武志さん。

顧客はプライドルや老舗和装、釣り具メーカーまでと幅広く、また、同業からの信頼も厚い。あり得ないような要望にも、「できない」は言いません。多品種・小ロット、短い納

期、低予算で高級品と変わらない仕様など。試作には手間もお金も惜しみません。不採用となっても経験値や取引先との信頼関係が残りますから」と従業員が口をそろえる。

依頼のメールの一言から相手の想いを汲み取ったデザインを創り出し、驚かれたことも。製品完成後も最良の状態でお客様のもとへ届くよう納品後まで想いをめぐらせる。一期一会の結婚式や記念イベントも多く、失敗は許されないため、あらゆることに気を配る。

私たちが何気なく目にする凝った印刷物や紙製品。素材選びからデザインに至るまで、「伝えたい人の想いを細やかに実現するこのようなプロ集団が、心に響く印刷物を支えている。」



私も力もちです

三洋化成は昨年11月に創立70周年を迎えました。印刷物や紙製品で人々の想いを支える創和紙行と同様に、三洋化成は機能性化学品を通じて、暮らしや産業を支えています。

三洋化成工業株式会社

京都市東山区一橋本町11-1
 もよりバス停は「泉涌寺道」

Twitter 始めました

@sanyochemical

2019年11月1日、
 当社は70周年を迎えました。

4月1日より、社章とロゴを新しくしました。